

議会報告会を開催

明石市議会は、市民の意見を把握し議論や政策立案等に反映するため、議会報告会を開催しています。今回は常任委員会ごとにテーマを決めて関係する団体と意見交換を行いました。

防災リテラシー

明石工業高等専門学校生
×
総務常任委員会
平成29年1月17日 開催

明石高専では防災士の資格を持つ学生有志が「明石高専防災団DIP RO135」を結成し、防災ゲーム「RESQ(レスキュー)」の開発などを行っています。平成29年1月17日に防災ゲームの紹介とともに災害に対する備えについて学生10名と意見交換しました。

活動を通して変わった点について

- 防災士の資格を取ってから意識が変わった。災害時の対応を話し合うことで家族の意識も変わってきた。
- もし災害に直面したら地元で臨時の「DIP RO135」を立ち上げたいと考えている。
- 災害対応には、自助、公助、共助があるが、どれが大切だと思うか
- まず自助で自分の安全を確保した上で共助が大切だと思う。
- 防災リテラシーを学んでから、避難袋に何を入れればよいのか分かるのではないか
- つてきた。避難先ではお互いに助け合いながら、支え合うことが大切ではないか。
- 防災ゲームを作成するにあたって注意した点について
- ゲーム性と防災教材とを兼ねたものにするのに大変苦労した。遊びながら、現実に役立つ知識が得られると思う。
- 防災ゲームは、スマートフォンを利用してクイズを解くなど面白いと思うが、ルールを理解するのに少し時間がかかった。工夫すればさらに良くなるのではないかと
- ルールを説明する者が



防災を学べるゲーム「RESQ」

いなくても楽しめるように改善していきたい。大人にゲームの説明をするのは初めてだったので緊張したが、楽しみながら貴重な意見も聞けた。これをきっかけに防災教育の教材として使えるように協力をお願いしたい。

明石市の障害者福祉の向上

明石市障害者当事者等
団体連絡協議会
×
文教厚生常任委員会
平成29年1月30日 開催

平成28年4月、本市は誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めるため障害者配慮条例を制定しました。障害のある人が日常生活で不便だと感じることや困ることなどを聞くため、29年1月30日に明石市障害者当事者等団体連絡協議会の19名と意見交換しました。

公共交通の安全対策は

- 28年12月明石市と交通事業者、障害者団体で公共交通の安全対策に係る意見交換会を行ったが、市議会にも参加してもらい、気軽に話し合える場を設けたい。
- 踏切の場所によっては歩道が狭く、通学や通勤時間帯など危険を感じるため歩道を広げてほしい。
- 障害のある人や配慮が必要な人への対応について
- 健常者が障害者への声掛けをためらっている。今後でも啓発活動をお願いしたい。
- 28年11月の広報あかし



筆談ボードでコミュニケーション

で譲りあい感謝マーク、ヘルプマーク、ハートプラスマークが掲載されたが、市内で取得できるのは譲りあい感謝マークのみである。他のマークも手に入るようにしてほしい。

近、あかし市民広場などにも筆談ボードが設置されており、便利になった。

歯科診療について

障害によっては歯科治療で全身麻酔が必要な人もいる。危険な場合もあるため総合病院で対応できないか。

障害者優待乗車券について

市の障害者優待乗車券は、バスやタクシーの助成はあるがガソリン券の助成はない。車椅子での移動等では、自家用車を利用することが多いので、ガソリン券の助成をしてほしい。

観光・産業振興のための取り組み

明石商工会議所青年部
×
明石商店街連合会青年部
×
ぶらり子午線観光ガイド連絡会
×
生活文化常任委員会
平成28年11月14日 開催

平成28年12月にあかし市民広場をはじめとした明石駅前再開発ビルがオープンしました。今後の観光・産業振興の取り組みについて、28年11月14日に明石商工会議所青年部、明石商店街連合会青年部、ぶらり子午線観光ガイド連絡会の計10名と意見交換しました。

明石の観光の現状分析や課題は

- ガイドの案内先としては、明石公園周辺が約7割、観光客の年齢層は50〜70代で全国各地から訪れている。
- 明石駅構内の観光案内所は、若年層やファミリー層の利用が多く、1日130〜140件の利用がある。食に関するの問い合わせが中心となっている。
- 観光客の滞在時間が短く消費金額が少ない現状がある。
- 天文科学館のニーズは増加傾向にあるが、観光バスの駐車場が課題
- 観光素材のPRや関連付けについて
- あかし市民広場では、情報を発信し、市内での回遊を促す基点としていきたい。
- いかなぎの魚醬(いわなぎのうまじょう)を使った新商品を開発しているの、あかし市民広場を活用して展示会などができればと思う。
- 観光の中心である明石駅周辺から、ノリの加工場見学、二見の飲料メーカーの工場見学、魚住の酒蔵見学など、市内各地をつなぎ滞在時間を延ばしたい。
- 外国人観光客であふれ



市民広場を活用して明石をPR

と考えている。観光素材のPRや関連付けについて

地域公共交通の課題と今後のあり方

明石市地域公共交通会議
×
建設企業常任委員会
平成29年1月31日 開催

平成29年1月31日にコミュニティバスやコミュニティタクシーなどの取り組みを行っている山口市の交通政策について視察を行った内容を報告するとともに、公共交通関係団体や地域、交通弱者などを代表する団体、国・県担当者など計18名と意見交換しました。

コミュニティバスについて

● 転回場所のない狭い道路での運行も、空き家を方向転換場所に改修するなど、地域の協力が得られれば、運行の可能性を探ることができるとはならないか。

コミュニティタクシーについて

● 地域の意見を聞いた上で、本場に必要などころに、必要な形態の公共交通網を形成していくことが大事になってくる。



市内を運行するたこバス

● 明石市のコミュニティバスは駅を起点として、バス停を起点とし、補完的に活用することが考えられるのではないかと

障害者・高齢者施策について

● 障害者手帳を所持している場合は明石市内区間では路線バスの利用が無料となるが、明石

市を出ると、市外区間の部分が有料となる。市外も無料となるようにしていただけたらありがたい。

● コミュニティバスについては、交通不便地域の解消が主たる目的であるため、障害者への配慮が十分でない場合がある。公共交通では、そのような垣根があつてはならない。

● 高齢者にとってはバスもタクシーも絶対に必要な交通機関であり、外出のきっかけとなる。これからの利便性の向上について考えていきたい。